

## 議会活性化委員会 会議記録

1 日 時 平成24年6月27日(水) 午後2時17分開議

2 場 所 第一会議室

3 出席委員

委員長	末松裕人
副委員長	石川龍之
委員	安藤淳子
委員	こひら由紀
委員	宇津野史行
委員	山中啓之
委員	杉山由祥

総務財務常任委員長	深山能一
健康福祉常任委員長	岩堀研嗣
教育経済常任副委員長	石井勇
都市整備常任委員長	飯箸公明

4 正副議長

議長	田居照康
副議長	山沢誠

5 出席事務局職員

事務局 長	小倉智
庶務課 長	戸室文男
議事調査課 長	染谷稔
庶務課 長補佐	三根秀洋
議事調査課 長補佐	大谷昇
議事調査課 長補佐	津久井隆信
議事調査課 主幹	秋谷昌子
議事調査課 主幹	長谷川毅
議事調査課 主幹	根本真光
庶務課 主幹	橋本貢一
議事調査課 主査	窪川栄一
議事調査課 主任主事	太田敏弘

- 6 会議に付した事件 (1) 議会報告会について  
(2) その他

- 7 会議の経過及び概要 委員長開議宣言  
議 事  
傍 聴 議 員 中田 京議員  
大井 知敏議員

開会 午後2時17分

### 末松委員長

それでは、放射能対策協議会以外でお待ちいただいた皆様にはお待たせをいたしました。これから議会活性化委員会を開会させていただきます。

それでは、早速きょうの御協議をいただく議題について取り上げたいと思います。

まず、前回からの経過についてであります。活性化委員会、議会の活性化にかかわる提案として、皆様方からたくさんの御意見をいただきました。それぞれ会派あるいは会派に属さない方々からの意見も含めて一覧表に取りまとめた上で、一度そういった提案があったということは皆様にお示しをしてあると思います。その会議でもお伝えしたとおり、議長から諮問といえますか、検討の依頼を受けている流れがございますので、一度この提案を正・副議長にお預けをして、それ以外の議会運営委員会法規の取り組み等々の整理をしていただいた上で、当面、活性化委員会としてこういったテーマを検討していくべきかというところの判断を仰ぐことといたしました。

その結果、活性化委員会につきましては、その一覧表を一覧していただくとうわかるんですが、「議会報告会について」というところについては、各会派それぞれから提案、意見がございましたので、まずこれを中心に検討していただきたいという一つ御指示をいただきました。

さらに、議会活性化の継続性といえますか、今まで松戸市議会として活性化に取り組んできた一つの流れ、中心点が常任委員会の活性化を図るところにありましたので、その辺も踏まえた上でのあり方というものをぜひ検討していただきたいということでありました。

幾つもの提案がありましたので、優先順位をつけながら検討協議をしていくということになります。議長からそのような御指示をいただきましたので、今回その辺をまず優先して皆さんに実現方、どういったことができるのか、どうすべきかという協議をしていただきたいと思います。

この委員会は、発足当初から適宜必要に応じて議会構成メンバー等の出席を求めながら委員会を柔軟に進行していくということもありましたので、議長あるいは副議長とも相談をして、今回、ある程度テーマ、優先すべき、協議すべきテーマが示されましたので、各常任委員会の委員長、きょうは教育経済だけ副委員長に出席をいただいておりますが、御出席を依頼しまして、それできょうこのような場になったというのが一連の経過であります。

まず、そういった流れを踏まえていただいて、議会報告会についてそれぞれ意見交換をしていただきたいと思います。

それと、ごめんなさい、資料の補足の説明があります。

そういった流れでの提案といいますかお話を受けておりましたので、一応、それぞれ皆さん御認識はいただいていると思いましたが、一覧表として各常任委員会が現在閉会中に所管事務調査として取り組んでいるテーマとその進行状況についても取りまとめを事務局に依頼をしておつていただいた資料がありますので、その辺も参考にさせていただきたいと思います。

#### 宇津野委員

議会報告会についての話ですよね。

#### 末松委員長

そうです。

#### 宇津野委員

私も議長から活性化委員会に議会報告会のことを議論してほしいという話があった場に居合わせたんですけども、各会派からやったほうがいいんじゃないかという意見が出て、ただ、それについてはやり方について全くこれからの議論であると。ただ、その前段階として、やる方向についてはいいのかどうかということを確認した上で、その上でやり方について議論していくという段階も経ていく必要があるのかなと思っていて、ですから、まず現状でこのやる方向でいいのかどうか、そこら辺はそれぞれ質疑があれば……

#### 末松委員長

どうぞ、その辺も意見があれば言っていただいて結構です。

#### 宇津野委員

私は、やる形態そのものについては具体的な考えとしてまだまとまってきたわけじゃないんですが、ただ、今の流れ、また議会改革の流れとして各市が先進・先行事例というのがあることから、何らかの形でやはり議会報告会というものをやることで、前にもお話ししたかもしれませんが、やってはいるんですけどもほかの会派の議員さんとかいうことでやったりすることは基本的にはないものですから、じゃあほかの会派の方々の議員さんの、例えば支持支援されている方とかのもし報告会とかがあるのなら、そういった方々の意見も聞くことは非常に刺激にもなるだろう。逆に我々のこと、議会の姿がより身近に見ることができるようになれば市民の方からもますます御理解いただけるのかなという点、いろいろ市民の皆さんと相互に意見交換する、そういった場がも

しできるならば非常にいいんだろうなという思いから、何らかの形、この形については皆さんの御意見を出していただきたいんですけども、やるという方向で行けるのなら、ですから具体的なやり方について議論していいんじゃないかというふうに思います。

#### 末松委員長

わかりました。今のポイントをじゃあ一度整理しましょう。

各会派全員からもう議会報告会の提案が出ていたものですから、ある程度了解事項だと思いましたがけれども、今の点、宇津野委員からまず段階としてそれぞれの合意形成をしたほうがいいんじゃないかということですので、その点についてはよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

#### 末松委員長

もう異議がないと思いますけども。

#### 宇津野委員

そういうことですか。

#### 末松委員長

はい。じゃあ、そこのところはそういった前提に立たせていただきます。

次に、方法論の提案について何かありましたら。

一応、議長と相談の上での一つの形、優先すべき一つの形は提示はさせていただいておりますが、そのことも含めて、じゃあ次に方法論について御意見をいただきたいと思います。

#### 宇津野委員

具体的にどういう方法にするかという切り口はものすごくあって、例えば年に何回にするのかとかいう問題から始まればいいのか、それともグループ分けはどういう形にしようか、ただ、常任委員会の委員長さんが今回いらっしゃるということですから、各常任委員会ごとにグループになって、それぞれそこに所属する委員が一つのグループとしてやるのが会派の分け方としてもテーマとしてもよいのかなというふうに簡単には考えるんですけども、かといって…このあたりでちょっと思考が停止してきましたけれども。

### 末松委員長

そうなると思ったので、一応きょう常任委員長にそれぞれ御出席いただいたのは、こちら側の進行上の判断でありましたけれども、一つの形の提示をさせていただいたのが先ほどの説明です。所管事務調査というものをベースにして、議会活性化というものをしてきた流れの中に報告会というものをうまくマッチングさせると、一つそういう形があるんじゃないかと。それ以外の報告会、いろいろさまざま——さまざまでもないけれどもあると思いますけれども、取り組むべき優先課題としてその辺がまずどうなんだと、やれるものなら積極的にできるものから一つずつやっていったらどうだろうかというところで提示させていただいたのが一番最初の具体的なアイデアですね。だから、それについて何かあれば、もしくはほかの切り口があれば、それはそれで御意見としてはまず承って協議したいと思えますけれども。

はい、どうぞ。

### 山中委員

議会報告会についてなんですけれども、やりたいとは思いますが。本来の趣旨として、まず前段として皆さんに共通認識したいなと思えますのは、なぜやるかというところで、大きく分けてこの議会改革の全国的な流れを見ますと、私の認識では次の三つがあると思うんですね。情報公開と市民参加及びその議員間の討議や研究の充実、特に前者二つは一つにくくってもいいと思えますけれども、政治不信ですとか市議会のもうちょっと市民への情報公開や参加が遅れているという取り組みに対して、今の地方議会の分権一括法の2000年からの流れでやっているところなので、重要なことは、今までの市議会が多くやってこなかったところで市民が求めているところをやる必要があると思うんです。同時に、これをやることで議員間の討議やそれぞれの考え、会派党派、地域を超えた円滑な議事運営にもつながるということは、さまざまな文献から私が読み取るところであります。

当然、これをやっていますというPRで終わると、議会基本条例もそうですが、骨抜きになってしまいますので、ここで決めなければいけないポイントは、間違いなく開催場所及び頻度、そして3点目が出席議員、先ほど宇津野さんからもありましたけど、メンバーですね。会派バランスを考えて、例えば会派から多いところは3人出て少ないところは1人とかあるとミニ議会になってしまったりするので、そういうところは配慮が必要なのかなと思いますし、あるいは今出てきた意見として常任委員会の委員長に一つとしてやるのもいいかもしれません。

栗山の、これ私は見たことないんで現物を、文献で読む限りは、小さい議会

のところはフットワーク軽く行けるんですね。10人から20人ぐらいの議会は、大体地域が古民家が三つぐらいしかなくて順繰りに回っていかうとか、1回10人とか5人とか決められるんですけど、多い、40人以上でやっているところは私は知らないんですね。御存知の方は教えていただきたいんですが、いろんな切り口で参加メンバーの決め方があるんですけども、やっているところの実態をお聞きしますと、結構やっているうちに執行部へのおねだりになって、議員がまるで執行部のような答えをしているという事例をいろいろ私は勉強会などに行くと耳にします。そうなるといけないなと思っていますので、そういうところを含んだ上でメンバーについては特にデリケートに、地元の議員ばかり来ているよとか、いろいろそういうところを市民から何か指摘されるらしいので、今の三つの場所、頻度、出席議員によってやる内容が全然違いますし、その告知の仕方とか、紙で出すのか。流山市議会なんかいつも傍聴に行くとか傍聴の記入用紙の隣に置いてありますよね、議会報告会に来てくださいますと。それとかホームページに出す出し方、タイミング、そうしたことも結局やっているだけになるのか、本当に来てくださって満足して帰っていただける報告会になるのか、市民が主役で議員がやっているというところを忘れずにやっていくべきだなと思います。

それで、提案ですけど、これは一回どこか見に行ったほうがいいと思うんですね。次回、流山なんか、これは先進事例で、議会が終わったらすぐまたやりますから、時期として一回どうでしょうか。皆さんで見に行ったほうがイメージがつかみやすいんじゃないでしょうかと思いますが、そのときに聞けば。流山は2012年の終わりに日経グローバルの調査で全国ナンバーワンになりましたから、ちょっと追随しているのが悔しいところですけども、流山にこだわらずですけど、栗山に行くよりは楽かなと思ったので、先進事例としてどこか見たほうが、全くされる方からされない方までいろいろいらっしゃると思いますので、どうでしょうかという提案です。

以上です。

#### 末松委員長

ほかに意見ありますか。

はい、どうぞ。

#### 深山総務財務常任委員長

活性化の全般についてでございます。

今、議会の活性化ということの一つの切り口の中で、常任委員会の活性化をしていこうということで出発して行って、所管事務調査を行って行って、いろ

んなテーマを閉会中にやっていくという中で、委員会が一番活発になっていけば、それが一つの切り札の切り口の中で導火線のように広がっていくんじゃないかというようなことで出発をしてきたと思うんですね。

そういう意味では、まず方法論ということでは、確かに今細かなこと、開催場所ですとか開催日程ですとか構成メンバーですとか、事務局がかかわるかかわらないかとか、いろいろスタックかなと思うんですけども、一つの議会報告という形の中で、外に打って出ていくという考え方をしますと、自分の経験ですと、仲間で少し参加させていただいているんですが、議会のことをほとんど知らない方が多いんですね。議会用語も含めて議会自体が何をやっているかということが、報告する前に議会って何だろうというようなことが、もうそもそも論から出てくることが多いものですから、そういう意味ではいろんな形の構成メンバーというよりは、やっぱり各委員会の構成メンバーの中で議会報告。ですから、そういうような構成メンバーの中で外に発信していくというのが一つの大きな一番感わないで行ける、各常任委員の皆さんも感わないで行けるようなことなのかなというのが一つ考えられるのかな、それで行ったほうがいいんじゃないかなというふうな気がします。構成メンバーというのは、その委員会ごとでの中での動きですね。

それで、その対象とされる方、もちろん広報に出して、いろんな形で不特定多数の方に来ていただくということも時と場合によっては必要になってくるかなと思うんですけども、自分のほうの例えば総務財務委員会なんかですと、今、防災対策ということで、いろいろなことで幅広く話があっち行ったりこっち行ったり飛んじゃっていて、なかなかまとめ切れないところがあるんですけども、そういう意味では、いわゆるつかさつかさをたどっていらっしゃる方々なんかにはまずは話を聞いていただく、あるいは意見交換をするというような一つのそういうような形の中で、議会報告会という形をとるのが各委員さんの負担もなくてテーマがはっきりしていいんじゃないかなという気がするんですね。

例えば、防災なんかですとかなり幅広いんですね。もちろん個々の市民の方の御意見を伺うということも大切なんですけども、そういうことと、それよりは逆に、いわゆる防災組織あるいはその計画の中でそれぞれのつかさの方々、担当される方を含めていろんな形がありますし、消防の関係もありますし、ボランティアの関係もあるというような中で、そういうような少しずつ区切りをつくった中での参加をしていただく中でのこういうような話し合いを、いろいろ意見交換していくというようなことをまずしていくということが大事なのかなと。それで我々議員もそういう中でいろんな把握をさせていただく中で、また次のステップに行けるような気がしているんですけども、まずは委員



会単位での報告会。

それで、さっき山中委員がおっしゃったように、陳情の、参加する方が常にいろんな話をこうしてくれああしてくれと持ちかけてくると思うんですけども、やっぱりそれに対して、こうなんですよという話もできるような形にするには、やはり委員会単位での活動が一番いいんじゃないかなというふうに今考えています。

#### 飯箸都市整備常任委員長

都市整備委員長というよりも個人的なというか、ちょっと考えになっているのかもしれないんですが、委員長のほうから、今、継続性ということで、常任委員会の活性化、また所管事務調査という御提案をいただきました。この件に関しては、初めて行うことなんで非常にテーマが絞られてわかりやすいかなと思うんですが、私はここに参加するまでに思っていたのが、やっぱり議会としての報告会という位置づけでまずは行うというイメージだったので、ちょっとここまでできるかなと。四つのその委員会に分けて……

#### 末松委員長

四つの数で違いましたから。

#### 飯箸都市整備常任委員長

ええ。何か出られるかなというのがちょっと心配な部分が少しありまして、まず今の深山委員長さんのお話の中でも、そもそもという市民のレベルもいろいろあるかと思うんですけど、議会とはという根本的なお話が多いというお話を聞きましてちょっと思ったんですが、やっぱり議会としての報告会、全般にわたることになるかと思うんですけど、それと、あと広報を今、議会だよりということで毎号出しておりますけれども、その辺のやっぱり市民の情報としては議会だよりが大きな情報源なのかなと思っていますと、その広報は議会として発行してしまして全般的なことが載っています。それを見た市民がこれはどうなっているんだろうと疑問に思うようなことがやっぱりあって、あ、議会からの報告会だよと参加したときに、そういった今質疑とかもできるかわからないんですけども、そういったやりとりを通じて、議会全体として理解が広まっていくなかなという意味では、まずその全体の議会として報告会に出たほうが取っかかりというか、始まりとしては何かいいような気がするもので、その辺もちょっと御考慮いただければと思います。

#### 末松委員長

はい、わかりました。

あとはどうですか。

### 杉山委員

別に常任委員会でやること自体を否定するわけではないんですけども、やる回数にもよるかもしれませんが、常任委員会ごとに扱う案件の差というのはかなりあると思うんです、現実問題として。例えば、変な話なんですけど、全く市民等が興味ないような条例の改正だけする議会の委員会もあれば、変な話ですけどすべてを包含するような委員会もあればという中で、そのバランスがすごく難しいなと思っています。

もう一点、常任委員会だけじゃなくて特別委員会ですね。この扱いをちょっと考えたほうがいいなと思っています。むしろ逆に特別委員会のできるようなネタのほうが——ネタというのは申しわけないんですけども、議案とか案件のほうが実は市民にとって興味があるというのが常であります。

また、特別委員会のときも病院と予算・決算という形なんですけども、議会としてはとにかく予算の審査というものはまず一番の権能でありますから、やるとしたらそこが一番議会としてはふさわしいのかなという気がしています。今、ちょうど議会運営委員会のほうで決算審査の見直しというのが議題に上がっているところなんですけども、その辺からまず入るのがいいのかなという気がします。

結構個別の案件を取り扱うと、中には何でこれを取り扱うのと聞くような文言も出てこないとも限らないかなと思っています。やっぱりこれだけ40何万市民の大都市ですから議題はいろいろあるし、やっぱりそれが小さい市と比べるとかなりトピックの立て方が難しいなという気がしていますので、まずはそこら辺のいわゆる市民に興味あるという視点でいくと特別委員会の扱いというのが、まず大事なんじゃないかなと思っています。やるのであればですがね。

### 末松委員長

ほかにありますか。

### こひら委員

やっぱり何か初めてのことになるんで、なかなかイメージがわかりにくいとか、つくりにくいとか、さっき山中さんがおっしゃったように流山を一つ見に行くというのもいいことだと思いますし、ほかに他市の事例があれば皆さんで調べ合って共有して、ゼロから何かをつくるというのは難しいので、

そういうことが一つと。あと、私は、杉山委員がおっしゃったように、本当に市民が取っかかりやすいものとそうじゃないもの、ただ常任委員会を一例にしちゃうとやはりなかなかそこは難しいと思いますので、深山委員長がおっしゃったように、まず議会とはこういうものだよというのを最初にレクチャーしながら、それで市民の方が一番興味を今持ちやすいようなものからやっていくというのが自分も今いいと思います。

#### 安藤委員

私も、流山を見に行くというところでぜひ行ってみたいなと思っているところと。あと、流山自体はたしか議会だよりをすべての議員さん方が説明しているということで、特に議員個人が何かをしているということはないということなんで、それを始めたときと今でどのくらい変わっているのかという状況をチェックしたいのと。あとは、例えば予算委員会、午前の部でやってみて、その後分科会で委員会ごとの報告会があったりして、前半行きたかった市民がテーマによってどういうところに行くのかなという、それは一日のうちの終わりの時間割かもわからないですけども、そういった同じテーマをそれぞれの切り口で見えるような議会報告会になるといいかなとも感じています。

以上です。

#### 岩堀健康福祉常任委員長

常任委員会ごとの議会報告会ということがありましたので、私もちょっとそれについて考えてみたんですけども、健康福祉常任委員会ではテーマを健康診査及び検診ということで挙げておまして、この定例会中に具体的に特定健康診査の受診率の向上に絞ってこれから取り組みをしていこうということで決定いたしました。

大きくは生活習慣病を始めとする健康問題といったものがテーマになるわけですけども、まずは何よりも松戸市民の現状分析が必要であるというふうに思っておりまして、そのためには、例えば松戸市民は糖尿病が多いですよとか、あるいは健診を受けておけばこんなふうにならなかったとか、そういう生の声とか感情を現場の方は本当に常に接していると思いますので、そういった現場の専門家を常任委員会として招いて意見交換をしたり、あるいはアドバイスをいただいたりとかというふうなことが非常に有効であるなというふうに思っておりまして、具体的には現場レベルですと、そういうふうを考えますと医師会ですとか国保の運営協議会の委員さんとか、そういった方々を呼んで意見交換をします。あるいは最終的にはこの問題というのは市民の地域の方々の意識、一人ひとりの意識が変わっていただかないとあまり意味がないものなので、

そういう意味では大きく地域を巻き込んでいけるような体制が必要になってくると思うんですけども、そう考えたときにはやはり自治会であるとか、健康推進員さんとか地域レベルの方々も巻き込んでいく必要があるんじゃないかなというふうに思っております、そういった中で意見交換をさせていただいて、それで、常任委員会としてそれを受けて検討して、その検討した結果をまたその意見を聞かせていただいた方に返していくといったような形での市民参加というか、議会報告になるかどうかはわからないんですけども、一般の市民の方を幅広く対象にしたものも、基本的にはそういうパターンが多いと思うんですけども、それでも何か具体的にこれから一緒になって形づくっていけるような、より実のあるような形にしていくとするとそういったあり方も一つ有効んじゃないかなと、各常任委員会ごとのそういったあり方での議会報告会というのもいいんじゃないかなというのはいりました。

#### 杉山委員

何でもいいんですよ。

#### 末松委員長

はい。

#### 杉山委員

一つちょっと整理しておかなきゃいけないなと思っているのは、市政協力員と懇談会というのをやっているんですね、執行部サイドとして毎年。これは今お話があった例えば特定健診のことについて、じゃあ議会がやりますということ、それ自体を否定しているわけじゃなくて、実は去年、1年間かけて執行部は各地の市政協力員の懇談会というか懇話会、名前は何でしたか。（「市政懇談会」と呼ぶ者あり）市政懇談会というのをやっていて、ともすると市民から見るときに執行部と議会というのがごっちゃになるんですよ。そこら辺のあり方がすごく難しいなと僕は思っているんですけど、新松戸では新松戸地域の方々と新松戸選出の議員の意見交換会を毎年やっていて、ともするとやっぱりそれが何となくこっちが執行部みたいな言い方になっちゃうなというのも結構あって、それは毎年僕は悩むところなんですけども、その辺の整理というのを執行部とつけるわけにいかないのかなと個人的に僕は思っているんですよ。ともすると何かこっちでは市長の執行部が市政懇談会でこう言っていて、ともするとこっちでは議会でこんなことを言っていてという話じゃなくて、逆に今度は市民に混乱を招きかねないことになると思うので、そこの整理というのはきちんとつけておかないと僕はちょっと何か逆に混乱しちゃうかなという気がし

ています。

#### 末松委員長

今の点はどうですか。ほかにありますか。

#### 石井教育経済常任副委員長

私は初めて出るんで、ちょっと担当しているところだけでございますので、よろしくをお願いします。

#### 末松委員長

はい、すみません。どうぞよろしく。

#### 石井教育経済常任副委員長

今、皆さんの発言すべてが何か納得できたんですけども、きのう、実は教育経済のその席で、この地域の方々の経営者の方々との懇話会というような形でお話をさせていただいたんですけども、地域の今の経営の実情とかもろもろ、話が長くなっちゃうとあれなんですけども、非常によかったなというのがありまして、教育経済においてはこれからもこのような形ですっと継続してお互いに話をさせていただければありがたいなということで、とにかくそういうことを常に教育経済のほうは進めていくということを確認したんですけども、それと同時に、今言われた市民との議会報告と言われても、やはり勉強していかないと、実例を見ていかないとちょっと厳しいんじゃないのかなというのもあるんで、まずは教育経済みたいな形をこの委員もやっていただければありがたいなと思った次第でございます。

ただ、一つちょっとまずかったかなと思ったのは、何か式次第というかレジュメがきのうの教育経済のほうでも配られていて、それに沿ってテーマごとに話がしていければよかったかなというのがちょっと反省点ではあったわけですけども、でも非常によかったなと思いました。以上です。

#### 末松委員長

はい、ありがとうございます。

#### 石川委員

私もきのうの教育経済はそういう形でやって、議会報告会じゃないんですけども、意見交換会ができてよかったなと。委員長も同じですので。実は経済委員会はおもしろくて、議案で市政協力員の――議案に出てきて、あれも要は

委員会の中だけでは見えないだろうということで、一回、意見交換をやりませんかというか、御意見も拝聴しながらこういう議案に対してどういう御感想とかね、非常に呼びづらかったんですけど、お呼びしたら地区長さんが出てこられて、全部偉い人ばかりだったんで最初からカウンターパンチを食らいながらやっていたんですけども、そういうことをやると非常にいいなというのは感想としてありますけども、さっき言ったようなテーマとかをきちんとやりながらしないと、結構、話も広がって脱線していくような意見交換にもなりかねない。

だから、議会報告会という何かテーマを決めて、ある面、片方の流れが多くて、その中で少し拝聴するような部分ですけど、常任委員会で行っているテーマを決めた年間テーマに関しての、市民のその特定のテーマに沿った方々のつかさの方をお呼びしてやると、きのうやったようなイメージの会になるのかなという気がするんですよ。だから、本当の意味での議会報告会で市民にぜひ真実——真実じゃないけど、もっと詳細に詳しく生の声を議会側から伝えたい。そしてその臨場感の中で市民の方々から御意見も賜る。そういうようなイメージのというやっぱり特別委員会等で非常に重要な案件を伝えなきゃいけないと。ここが市民が一番今リアルで知りたがっていらっしゃるだろうというところを伝えなきゃいけないのかなと思うね。

だから、常任委員会のテーマに沿うと、今言ったつかさのようなところでの意見交換をしながら、その常任委員会のテーマの中の何か絞り込んでいいもののエキスを取り出していい形につくり上げたいというような目的設定型の意見交換の議会報告会になるような気がします。

だけど、飯箸委員長が言っていたように、一番大事なところは何でしょうかといったときに議会全体としてこれは市民との報告会なり意見交換という全体の流れの中でこれは知っておかなきゃいけないなというところもあるんでしょうから、だから、もし各常任委員会で行うとしたら、深山委員長がおっしゃっていたような形になるのかなというイメージですけど。きのうやってみてまさにそういう感じでしたよね。

**石井教育経済常任副委員長**

はい。

**石川委員**

だから、結構、先に一回やっちゃったということですかね。

**石井教育経済常任副委員長**

そうですね。

石川委員

結果としてはね。

末松委員長

まあ、いい事例でしたけどね。

石井教育経済常任副委員長

すみません、ちょっと補足説明をいいですか。

末松委員長

はい。どうぞ、副委員長。

石井教育経済常任副委員長

一つだけ。さっき話すと長くなっちゃうということを言ったんですけども、いろいろなお話を聞いていて、とにかく松戸の駅前周辺は人の流れが少なくなっているということで、皆さんからの御意見というか提案をお願いしたいということなんですけども、空き店舗対策。通常の空き店舗対策とはまた別の松戸版空き店舗対策をと。私も空き店舗対策というのは商売やっていたから知っていたわけなんですけども、あれは商店会が借りないと借りられないというような仕組みなんですよね。だから個人個人が店舗を借りたいというのはすごい制約があって無理だということなんで、もしできれば松戸版の空き店舗対策に向けて検討していただければというようなテーマもいただけたということは非常にありがたいなという報告です。そういうようなことが挙げていただけたというのは本当にありがたいなと思いました。

末松委員長

そうしたら一度ちょっと待ってください。そこまでちょっと整理してみるから、また何かあったら言ってくださいね。

今、副委員長がある程度皆さんが意見が出たところで引き取ってまとめていただいたような感じが僕はしたんですけども、大きくいわゆる一般的にそれは何が報告かというところのやっぱり難しいテーマはあるけれども、だれがいつ何を報告する、不特定に対する報告というテーマと、それから所管事務、いわゆる常任委員会をベースとした、それを報告会という位置づけかどうかは別としても意見徴取、さっき岩堀委員長がまとめてくれたんですけども、それを政策の中に盛り込んでいこう。さらにそれを政策提言して、市民に対しても

成果報告をするというようなところと、大体イメージとして二つ。それで、そこにたまたま教育経済常任委員会の事例が、確かにその流れの話のように思うんですけども、あったということだから、少しテーブルを二つぐらいに整理したいと思うんですけども、その辺はどうですか。

### 宇津野委員

私も石川委員が今おっしゃったときとちょうど本当に同じことをやっぱり考えていて、要はおっしゃるとおり二つなんですよね。だれを対象とするかでもうやり方が違ってくるんだということで、その方面の人と課題解決のためにテーブルをもって意見交換をする、きのう教育経済常任委員会がやられたように。いろいろな意見の多数の人と意見交換をするなりどうのこうの、それは飯箸さんが先ほどおっしゃった議会報に基づいてやるというやり方。それで、もし仮に議会報に基づいてやるんだったら多分四つぐらいに分けて、四つの地域に1人ずつ行って、この地域は何とか市民センターで、だれが出席とやると議会報を見て、あ、この問題聞きたいな、この質問している人聞きたいな、この委員の人聞きたいな、じゃあそこに行こうかなという話になるのかもしれないかね。そうなってくるとある程度整理がもしかするとついてくるのかもしれない。議会報に基づく――議会報はその議会の報告ですから、これを報告するやり方であれば多数の市民を相手にして意見交換もできるのかなと。

先ほど、冒頭に申し上げたその方面の人たちとの課題を話し合うというのは、ある意味で委員会の所管事務調査の中で担保できるかな。実際今の教育経済委員会がやっている。ですから、そこはもちろん充実させていくと同時に、いかに多くの市民と今の市政について話し合い、報告という意味では議会報があって、それに基づいた意見交換なりの場をしっかりと設けることができる。そっちのほうが私のイメージする議会報告に近い形です。

### 山中委員

私もお話を聞いていて、確かに委員長が整理されたように二つのテーブルがあると思うんですけど、比重として高いのは飯箸さんがさっきおっしゃったようなまず議会って何という人のほうが確かに多いと思います。それは、傍聴者の側からの数を見てもそうですし、議会報がいろんなところに置いてあるのを市民センターに行くたびにどれぐらい取られているかなとチェックしていても体感的に思いますし、広報委員会で配られますインターネットアクセス部分を見ても思いますし、要は議会に関心がない方が圧倒的に多いんじゃないかなというのが私の仮説です。なので、今ちょっと、二つのテーブルのうち、その全体でやるほうが有意義というか重要度がまず高いのかな。



それで、常任委員会とか特別委員会はもう一つのテーブルとして、それがクリアできたら次に行ってもいいのかなというふうに思いました。

それぞれのメリット・デメリットのマトリックス表を書いてみたんですけど、常任委員会でやることのメリットは全員は入れることだと思うんですね、一人会派を含めて。テーマが明確だと思うんですけど、結局横並びがきついなと思ったんですよ。この資料を見ていてもそうなんですけど、やっていることの重い軽いが、杉山さんもおっしゃいましたが違うのと、結局市民の質問に答えるのをどうするのかなと思ったら、やっぱりそのつかさの方、委員長なり副委員長、委員長なんでしょうね。としての重責がさらに増していき、議会として責任を負わなきゃいけないところが出てくるような気がするんです。

それは所管事務調査で昨日、私も拝見させていただきましたけど、教育経済が昨日やったようなターゲットを絞るほうは調査と研究としてやったほうがいいと思うんですけど、あくまで一般的に今行われている議会報告会を見ますといわゆる広報の一環、報告会なんですよ。公聴会になるとまたちょっと趣旨が違ってくるんですよ。それはそれで必要だと思うんです。それはそれで委員会の権限で今もやれるのでやればいいと思うんですけど、ターゲットを絞るやり方よりは、まず広く市民全般に対して、議会とはこういうものでこういうことで、こういう日程でこういうのが出ますというのをやるほうが重要なんじゃないかなと。横並びでわざわざやる必要もないんですけどね、常任委員会として。と思うんですよ。

特別委員会は、メリットは関心が高い人がいっぱい来るんですけど、一人会派か二人会派以下の人はは入れないということと、例えば病院問題を想定したときに地域によって全然反応が違う、收拾がつかなくなるのが容易に想定されるんじゃないかなと思うんです。

ちなみに常任委員会だと、メンバーの話は後々決めればいいんですけど、常任委員会だけでも全員来たら11人なんです。自由にすればいいのかわからないんですけど、会派最低1人だと7人、一人会派入れて今8人です。それでも結構多いほうだと思うんです。大体、まちの議会報告会を見ていますと流山なんかだと四、五人だったような気がするんですけど、人数が違うので松戸市の場合、だれがどういうスタンスで出て、多くなればなるほど多様な意見をだれが收拾するのかというところが問題になってくると思うんです。ちなみに常任委員会だとは入れない会派も出てくるんですよ。

ということなので、私はとりあえず最初は、いずれにせよ最後のほうに常任、特別という話が出てくるかもしれませんが、まずは初心者向けというか、全日傍聴するのは厳しい議会の1か月近くの全日程をまとめて、議会はいつやってこういうことをやったよという報告を、議案に対してこういうのをやっていま

す、こういう話題が出ていますとかというのを、ちょっと総花的になるかもしれませんが、やるのがまずは必要なんじゃないかなと。いきなり専門化しちゃうとちょっと厳しいんじゃないかなと思います。

それで、もう一つ提案なんですけど、先ほど流山を見るのをいいとおっしゃってくださる方もいたんですけど、私も今、そうやって考えるとやっぱりやる側の我々がいざ開催するときに結構な気合いが必要だと思うんですよ。そのためのために、テクニク論なのかもしれませんが、やっぱり一回見ておくことは絶対必要だと思うんですよ、ほかの市議会の先進事例を。

それで、同時に、もしさらに先進したいというんでしたら、市民にアンケートをしてみたらどうかなと思うんです。それは議会だよりを使ってでも別口のビラを市民センターとかに配布してもいいと思うんですけども、要は何が見たいんですか、市民の皆さん、病院のことが知りたいのか、それとも防災のことが知りたいのか、健康のことかわかりませんが、人によって結構違うのでこっちからいきなりターゲットインしちゃって、きっと松戸市民はこれが知りたいだろうというのを特化しちゃうのは常任委員会の所管事務のほうが適していると思うんですね。きのうの商工会議所、JCの方々がやっていたみたいに。なので、それを一回聞いてみて、それで結論的に常任委員会が聞きたいなり特別委員会があったらそれはそれで正当性を持たせられると思うんですけど、まずは全般的に関心がない市民をしっかりと市政に参加していただく、選挙に行っていたら、あるいは議会に来てもらうというところを、議会の場所すら知らない人が多分多くて、皆さん問い合わせとかあると思うんですけど、いつ傍聴できるのか、そういう基本的な、やや出前講座的になりつつあるので事務局の力も借りなければいけないと私は思っていますけど、最初は視察に行ったりアンケートしたりというのはいいかなと思いました。

テーブルの話については、全体のほうを優越したほうが最初はいいいんじゃないかなと思いました。

#### 末松委員長

ちょっと今漠然としているんだけど、いつどういったテーマでやればいいのかというのは、もう少し具体的には。

#### 山中委員

私の案は基本的にこれはどういう議会報告会にするかによって全然違うんですけど……

#### 末松委員長

ええ、だからそれをどういう議会報告会にするかということ。

### 山中委員

私は、定例的に――共産党さんは前回のテーマシートで書いてあったんですけど、定期的にと書かれていて、どこかの会派さんは年に1回と書かれていたんで、それによって全然違うんですけど、私は定例議会ごとに3か月に1回はやったほうがいいと思うんです。なぜかという、一発の祭りで花火上げて終わりみたいのはちょっとよくないと思うんで、その議会で一番メインだということ、活性化メインなのか常任委員会なのかわかりませんが、会派で幹事長会議、できれば公開の場で決めたほうがいいと思うんですけど、それで決めるんですよ。式次第を決めるんです。それを広報か何かに、議会だよりを松本市みたいに出しているところもありますし、流山市みたいに別口で置いているところもありますし、こういうのを話しますというのを決めればいいと思うんです。それが放射能の件なのか、病院の件なのか、全然違う何か条例の議案の件なのか、それは都度違ってきていいと思います。

### 末松委員長

そうすると、やるというまず形が優先されるべきだと。

### 山中委員

形も並行して加味して考えるべきだと思います。なぜかという、うちは人数が多いので個人個人が言いたいことを言ったら収拾がつかなくなると思うんですよ。質問にもたえられないと思うんです、市民に。

### 末松委員長

そうするとあと、どうぞ、まずは。あとでまとめますので。

### 宇津野委員

すみません。テーマというのは、前みたいに例えば病院問題に対する附帯決議が上がっていたりとかなんとなくという話になってくると、テーマの絞り込みというのはしやすいと思うんですけど、決して毎回毎回そういった目新しいもの、目を引くものが必ずあるものではないことは確かなことなので、先ほど山中委員が冒頭、議会報の報告会という話がありましたが、実際、私が個人的に議会報を出して個人的に報告会を開くときには、自分の議会報告書を使って、じゃあ、これは1個目だよという、行きましようみたいな感じでやっていくことが多いんですね。それが実は一番形としてはやりやすいのかなと。当然、議

会報については、1面にその議会の中では一番知ってほしい記事というのは載せる場所というのは設けるわけですし、それはありつつ、例えば各常任委員会の質疑内容、審議内容、それで議案に対する可決か否決かどうなのかというような形で、各議員の一般質問も載っているということを考えてみると、その議会報について報告をする。それで議会報でこの部分をもう少し詳しく聞きたいんだという質問がもし出てきたらそれに答えられるようにする。

そのためには多分メンバーは、例えば何人かいたら各常任委員のメンバーは1人ずつぐらい入っていきやいけませんし、もっと言ってしまえばじゃあ4つに分けるんだったら11人になるわけですけども、例えば私の議会質問のところを見て聞きに来たけど、宇津野はその場になくて聞けなかったということはないように。例えば何月何日に明市民センターではこういうメンバーでやります、同じ日に常盤平市民センターではこういうメンバーでやります、同じ日に新松戸ではこういうメンバーでやりますというのをあらかじめ指定しておけば、行きたい市民はその議員さんがいるところの報告会に参加をすれば、そういったことができるようになるかもしれない。そういった意味では議会報の報告会というやり方が、もしかすると多くの市民に選択権を与える——与えるという言い方はちょっと上から目線ですけど、選択権を保障すると同時に、こちらとしてももともとレジュメを用意すべきだったんじゃないかという話があるけども、ちょっと共通の資料を手元に持った形で意見交換をしやすい報告もしやすく、いちいちテーマをうーんどうしようかとやることもなく、頭からささっと説明して行って皆さんどうですかという話になるほうがやりいいのかもしれないというふうに思います。

いろいろ御意見はあるとは思いますが、これでいいのかという御意見もあると思いますけれども。

## 石川委員

常任委員会の委員長さんを中心に年間のテーマでかなり御苦労されながら、ずっと視察も含めて詰めていろんなことをやられた中で、教育経済常任委員会の場合は視察に行って、ちょっと密度が濃過ぎるぐらいでして、2日間で四つも見ただで最後の1個はちょっとハードだったんですけど、ただし、非常に勉強にはなって、それをこのままただ視察して終わりにしたらもったいないだろうということで、こういうまち懇なりサブカルチャーでまちおこしをやっているの、商工会議所なりJCなり、そういう方々との意見交換をやったほうがいいねというのは、実はその委員の中から出たんですね。それで、事務方にもその辺は伝えてあったと思うんですけども、委員長が受け取ってくれてその辺が実現したわけです。

そういうものになってきたということ積み重ねて、また自然発生的にそういう市民との、今回はつかさの方と話したんですが、そのテーマによって市民との意見交換をしながらやっていくということは非常に活性化になっているんですよ、実は。私はまだ3期だから10年間の中で、こんなことは最初なかったんで、常任委員会自体、そういう意味ではテーマを絞り込みながら非常にいいものができつつあるということで、ここの活性化委員会でそれを、例えばそれごとにやったほうがいいとか、そんなのを決めるというんじゃなくて、まずその委員会の委員長の差配のもとにそれを絞り込んでいいものに、最終的な報告ができるものに仕上げていこうとされている最中だと思うんですよ。ですから、その中で各委員会にお任せをしながら、ぜひそういう――公聴会形式になるかもしれないし報告会になるかもしれないし、それは各常任委員会にお任せをして、ぜひそういう市民との意見交換はやらなきゃいけないし、また議案によってはお呼びしていただいて意見交換をするようなものもあったんで、だから委員長差配のもとに一生懸命やられているものですから、ぜひそれはもっと活性化していただいて、それはもう各三月ごとの定例会の中でやっていただいてもいいでしょうし、うちは最終的なものでやるというのは、それは各委員長差配で、委員会の中で決めなきゃいけない案件ではないかなと思います。

あと、全体の報告会に関しては非常に難しいと思うんですね。例えば、議会報でやった場合のイメージで、どんなふうになるか私は見えないんであれですけど、一つのテーマだけでそこが2時間、1時間がぶわっとなった場合、全体の本当に松戸市議会としての報告会がそのテーマが1個クローズアップされたためにそこに全部集約されちゃうということになると、全体、松戸市議会として何を市民に伝えなきゃいけないのかという報告、その市政報告というものを市議会全体として市民にはこれは非常に重要だから伝える必要があるということで報告会をするんじゃないかなと私はイメージしていたんですけど、非常にあまりにもランダムでいろんな動きが出てくると、その報告会の意味って何となってくるので、そこの全体の市議会の報告会をもうちょっと詰めないとばらばらになってくると。ここの市民センターはこういう話になったけど、ここは全然違う話。それもその議会質問している人の思いが全体のオーソライズされたものじゃないんじゃないですか。その議員さんの意見で、それに対して質問があると思ったらそういう答えになって、松戸市議会としてオーソライズされているものかと思ったらないわけですよ。だから、そういうものになってしまうと松戸市議会の報告会じゃなくて個人の報告会をやれよと、多分それは出席者の中からその場で言われますよ。だから、そういうイメージになってしまうのでそれはちょっと難しい。

だから、要は柏市で一回やったのは、こんなときやっていたんですよ。放射

能問題で昨年、ばあって市民の関心がわいたわけでしょう、ホットスポットに。市民はものすごい心配していたんで市議会としても報告会をやろうとなったわけですよ。だから、そういう非常に重要な市民として情報が必要なものを市議会として執行部も引き連れながら報告会をやったと思うんですよね。そういう非常に大事な報告会をやったところもありますし、流山みたいに定例的に——一回それを私も見に行きたいと思いました。どういうイメージでやっているのかが見えないのでね。全体で何をもとに流山市議会がテーマを決めて、どういう伝え方をして、全国的に評価を受けたのかというのが知りたいと思うんで、それは見に行く分はいいんじゃないかなと思いますけど、全体をテーマ決めしてそれを伝えるというのは結構難しいことだと思います。ちょっとそこまでにしておきます。

### 末松委員長

ちょっと待ってね、じゃあ一度整理するからね。

はい、わかりました。それで、また今の副委員長の意見をいただいてということではないんですが、特に後段についてはまさしく議会とは何なのかというところの投げかけも含めた結構深いテーマだと思うんです。そこをあり方というものをテーブルにして議論していくのは、それはそれでいいのかもしれないと思います。

あと、せっかく限られた会議の時間の中である程度進行整理していかなければならないので、今、副委員長の前段の話で、常任委員会それぞれ非常に、特に教育経済常任委員会に所属されているという体験も踏まえて一つの話がありました。私も実は同じ委員会ですからそういう思いが強いんですが、先ほど副委員長からもそういうお話をいただきました。きょうは委員長もそれぞれ来ていただいているし、飯箸委員長からは、まだ委員会運営の中で進度の違いもあって一律に取り組むことに不安があるというような率直な御意見もありました。その辺は大変尊重すべきことだと思っておりまして、副委員長の言葉を借りればそれぞれの委員会に任せるべきだということもそのとおりだと思います。

ただし、それがややもすると独走というか、なかなか共有しないままに進度の違いが出てきてしまうというのももったいないものですから、やはりこの場でそういった情報を共有してどうあるべきかというところをある程度形づくっていくことにも意義があると思います。せっかく委員長が来ていて、先ほど岩堀委員長あるいは深山委員長のほうからも自分たちの中での取り組みはまだこうだけれども、具体的には石井副委員長からこういうことをやったんだよという話もあったものですから、それぞれ委員会運営の中で今言った、これは議会報告会というか市民とのかかわりというところで具体事例の話がありましたの

で、その辺を踏まえて少しちょっと自分たちの委員会を展開できるようなイメージのものがあるかないかの意見交換をしてもらえるとありがたいんですけども、まずそっちを片づけちゃいたいと思います。

あるいは石井副委員長のほうから、もう少しこんなという補足があればそのお話をいただいても構わないんですけども。

#### 山中委員

ちょっと質問なんですけどよろしいですか。――今直近の石川委員の御発言で全体会は難しいと。要はオーソライズされた議会の答えじゃないものを答えちゃっていいのか。例えば放射能だったら除染をもっとやってくださいと言われて、はい、やりますとは言えないわけだと。でも、それというのは常任委員会、特別委員会で全く同じですよ。それをオーソライズするんでしょうか。要は委員長だったら答えられるというわけじゃないと思うんですよ。議会や委員会での審議を踏まえて委員長は発言されるのが筋だと思うんですよ。それは委員長報告として議会で毎回毎回ほとんどやられているじゃないですか、審議して。それを通さずしてやるということは一議員であれ一委員長であれ同じだと思うんですけど、ですから私が言いたいのは、それをもって全体会ができないというのはよくわからないんですけど。

#### 末松委員長

それができないとは言っていないから大丈夫ですよ。

#### 山中委員

常任委員会のほうがまとまりやすいというイメージなのか、そこら辺。

#### 末松委員長

いや、違う違う。単に僕は進行上整理しているだけだから、それでちゃんとそのテーマは議論していただきますから大丈夫ですよ。

#### 山中委員

じゃあ、続けていいですか。

#### 末松委員長

はい、どうぞ。

#### 山中委員

ちょっと話が戻っちゃうんですけど、一回やっぱり見てみないとわからないというのは多分皆さんの本音だと思うんですけども、ちょっと手元にある資料で私が独自に、流山に別件で行ったときにちょっと議会報告の御案内とかを流山でもらってきたんですね。これをちょっと皆さんにシェアさせていただいてコピーしていただいでよろしいですか。

ここは2時間やっていて、例えば5月のものは24年度予算報告を1時間やって、その後、独自のテーマで分科会に分かれるんですね。これを見ますと四つに分かれてフリーディスカッションで市民の公聴会的なものが入っているんですけど、多分、常任委員会ごとじゃないです。要は地域の交通課題ですとか、除染について東部地区についてとか、多分、都市整備が多いんですよ、テーマ的には。皆さん、やっぱり地元のことのほうが聞きたいから。でも、地元の議員は行かないようにしているんだか何だかとちょっと小耳に挟みましたが。

これと、なぜそれが評価されているのかという日経の5月21日の資料、流山市がががが書いてあるので、これをちょっと焼いてもらってよろしいですか。

**末松委員長**

どうぞ。

**山中委員**

できれば一回見たほうがよろしいんじゃないかなと思います。  
すみません。

**末松委員長**

わかりました。

大丈夫ですか。大体、委員長それぞれ共有できましたか。

**杉山委員**

ちょっと今の流山の件については、別に悪いと言っているわけじゃなくて、もし次に行く議会報告会は多分特殊な議会報告会になりますよというのだけはちょっと一言言っておきます。

今議会、きのうですか、流山の本会議最終日で、やっぱり僕としてはネットで見ていたんですけども、市民参加条例、中身についての議論があって、最終議決が16対11で、しかも大もめにもめたわけですね。

〔「いいじゃない」「むしろいいね」と呼ぶ者あり〕



### 杉山委員

かなり特殊な事例だから、また見ることによってそれがイメージになるかどうかというところちょっと微妙だなと感じています。ちょっとそれは本会議を見た限りは。

### 山中委員

それこそ見るべきだと思いますね。ネットライブ対応もできるし。

### 杉山委員

いや、なかなかね、罵声が飛びかう部分、こっちに戻りつつどうなるかわからないし。

ただ一点、さっきも同じことを申し上げたんですけど、やっぱり継続性だとか議会のあり方だとかを考えたときに、僕は予算の審査というものが議会が持っている一番の権能だし、そこをどうしたのか、その年度の予算がどうなるのかというのが一番市民にとって関心の高いことですから、一番最初にやるんだったら僕はそれをやるべきだなと思っています。

それで、今、議会運営委員会のほうで決算の見直しということで、いろんな意見の出ている中で、例えば全員で特別委員会を組んで全員が委員になった中で分科会をつくって、その決算の見直しをしてというのが、もしそれが仮に予算とかでできるようであれば、だったらばその中から抽出して、委員全員が行くわけじゃなくてもいいわけですから、四、五人でもいいわけですから、という形式でもいいのかなと思うんですけども、ともすると何でそのテーマを選んだのなんていうのを言われかねないと思うので、僕は、どうせ一番最初にやるんだったらちゃんとその予算に対して向き合うという、今回も修正をやりましたけれども、やっぱりそれを批判する人もいれば賛成する人もいるでしょうから、市民の中には、そういったものにもちゃんと向き合わなきゃいけないんじゃないかなと一点は思いますので。

### 飯箸都市整備常任委員長

全体のお話を聞いていて思ったんですけど、やっぱりそうですね。継続性とかいう観点になると一番の市民の関心は予算であり決算であり、それがどうなったのかというところをもっと市民に幅広く議会のほうから情報発信していくというのは非常に大切なので、これが議会活性化としての継続性という意味でとらえると非常に価値があると思います。

あと、常任委員会ごとの取り組みに関しては、もう既に行っているわけで、

公聴会形式にするか等は各常任委員会で、この所管事務調査を充実させていく方向であれば別に報告会ということでこだわらなくても、それはそれとして方向性は見いだせるのかなと思いますので、改めてこの初めての取り組みである松戸市議会としての報告会という位置づけは、やっぱり今言った杉山委員の意見には僕は賛成したいと思います。

#### 石川委員

流山の資料も何か予算のものだったね。

#### 山中委員

ええ、今回は。ただ、発祥の起源がそれで始まったかどうかはちょっと私も不勉強でわからないんですけど。5月にやったものです。

#### 末松委員長

ちょっと私も進行整理の役があるんでなかなか、一委員としても参加をしたいんですが、わかりました。それぞれ意見があって可能性があると思いますので、集約できればきちとした形にこの場でもしていきたいと思います。

それで、一委員として発言をさせていただければ、松戸市議会の活性化の中で所管事務調査、要は何のために、活性化とは何なのかと、にぎやかなことが活性化だというような、あえてアンチテーゼにそういうわかりやすいあれを置くとするれば、いわゆる議会としてやるべきことの一つは判断をすること、それからそれに加えて政策提言というものについての取り組みの一つの流れを常任委員会の所管事務調査に置いたわけで、やっぱりこの流れとするのは、私どもがずっとかかわってきた経過もあるから思い入れが強いせいか、とても大事だと思っています。そういった中で議会の議員はそれぞれ市民を代表してはいるものの、今日的にやっぱり市民とのかかわりというものをもう少し深めていかなければならないと。その可能性の一つとして具体的にそれぞれ――所管事務調査というのはそれぞれ委員会の市民のために大事だと思って定めたテーマでしょうから、そういったところも見識のある人たちと意見を交換するというのは意義があることだなと幾つかの経験から強く思っています。そういった中で、常任委員会にそれを活動の中にきちと取り入れて、そこに厚みを増していく、そのことの取り組みの説得力を増していくということは、これは私は非常に有意義だと思っています。

それで、たまたまきょう委員長にも来ていただいて、教育経済では先行したような部分もあったものでその辺を少し披露していただきながら、各委員長に共有してもらって、それで、できるできないというのは段階があるし、それこ

そ活性化も含めて委員長の責任と権限がありますから、その辺は制度として固定するという事ではないけれども、そういったものを共有して積極的に公開していくことを、まず先行して進めてもいいんじゃないかというような思いがあるんですけども、その辺はいかがですか。

#### 深山総務財務常任委員長

今、委員長がおっしゃったようなことはどんどん進めていっていいんじゃないかと思えます。とりわけ今二つの委員会のテーマがあるよと。特別委員会からのことと全体と二つに分かれているような流れになったきっかけの議論がありますけども、委員会としての各常任委員会を中心としたそういう意味では報告会になるかどうかはあれですけども、公聴会あるいは報告会という流れとしての委員会としての活動をどんどんどんどん積極的にやっていくべきだろうということはいいいんじゃないかなと思えますね。

それで、例えばそれが強いて一つずつ流れの中になってきて、例えば特別委員会のセットというの必要になってくるのかなと思うんですけども、結局常任委員会のほうでそれぞれの、例えば議会とは何ぞやとかということも、もしその場面場面に応じてはそういうようなPRをしてというようなことも担ってもらってもいいんじゃないかなという気がします。

それで、取っかかりとしては、各委員会でのテーマを題材にしていく中での対外的な方々との意見交換会とか公聴会とかというのは積極的に考えてもいいかなと思えます。

#### 末松委員長

宇津野委員、活性化の委員でもあり、教育経済常任委員としてああいう経験も踏まえておられるということで何か意見があれば聞かせてください。

そんなに何か難しかったですか。

#### 宇津野委員

いや、それに関しては、言ってきたようなイメージがあるものですから、この最初からの形で、改めて言わせていただくということもありません。

#### 末松委員長

じゃあ、その点はある程度そういったことを共有させていただいてよろしいですか、委員長もいらっしゃるので。ただ、そこはそこで一つの――それは飯箸委員長なんかは特にまだ今取り組みの経過もあるということですから、そのように必要に応じて委員長として責任と判断でお取り組みいただければいいと

と思いますが、ぜひやっぱり積極的に取り組んでいただいでよろしいかと思ますので、その辺はじゃあまず一度共有させていただいて、その点につきまして一度整理をした上で、もう一つのテーマもありますので、その辺、盛んに議論を持ちかける様子もありますから、そちらのほうにも少し時間を割きたいと思います。

それで、ちょっとこれは何か資料の説明をしていただいたほうがいいかな。

### 山中委員

いや、特に。参考になさってくれば。

### 末松委員長

参考ですね。

議会の行う議会報告会の意義は何だと。さっき杉山委員が執行部がやることと議会がやることの違いが市民になかなか整理されていないというような問題の提起がありましたけども、その辺も踏まえて議会議員として、あるいは石川副委員長が議会としての合意をもってやるものなのか、あるいは個々の政治家の主張なのかというようなところも問題提起されました。その辺も踏まえてちょっとひとつ全体像の前提になるようなものが見えると、共有できるといいんですけども。

### 石川委員

今回の流山の予算報告をして、分科会でまた後半やっていくというやり方ね、こういう形。

予算報告は非常に重要で、また逆に報告会としてはこういう決定事項としてこういう予算づけをした意味合いも含めて市民にもっと詳細を御説明したいということとその意見を聞こうということだろうと思うんです。

全体のテーマの中で、一番松戸市が今大きなビックテーマは松戸市立病院の建て替え問題だろうと思うんですが、執行部と特別委員会とのその委員会の内容等、例えばマスコミがとらえてそれをどう発表するかとか、執行部がどうとらえてそれを広報で流すとか、大変、去年は市議会での論調と違うだろうというところで大変大きな問題になりました。それで、それはきちんと議会側としてはすごく、私としてはものすごいフラストレーションがたまっただけです。違うでしょう、そんな論調じゃなかったでしょうというところで、だからあの広報の訂正文が出てしまったというところでもあります。非常にこれは大きく昨年感じましたね。それで、きちんと生の声で伝えたほうがいいんじゃないかとか、その常任委員会自体を要するに放送して市民に聞いてもらったほうがいいんじ

ゃないかとかいうのもありました。

だから、だけでも、今アイ・エヌ・ジーなので、これはどこの時点で特別委員会で報告すればいいのかという問題もあるんですよ。これは私も特別委員会で重要テーマに関しては、最終的に議決されたものを報告するしかないだろうと、報告会をやるとしたら。こういう議論がいろいろありながらこういう決定をさせていただきましたという報告会しかできないだろう。その間にやるとしたら公聴会しかできないでしょうというのがイメージなんです。だから、議会報告会という報告になったら最終結論を報告する。公聴会として意見を賜り、いろんな方々の意見を伺わなきゃいけないというたるみが出たら公聴会形式の議会と市民との公聴会になる。それは報告会じゃない。だからあくまでも報告会だったら最終的な議会で結論したもの、予算委員会もそうですよね、予算の報告もそうですよ。最終的に決定したものを報告するという形で、その詳細のこれの意味はこういうことで決めましたということになるろうかと思います。だから、重要案件はそういう形。

ただし、トピックス的にぼーんと重要なものが出てきた。例えば放射能のホットスポット、これは大変だといったときには、市民に対してこれは大事なんでやろうよと議会としてもというようなときも発生して、柏ではやったと思うんですね。だから、定例的にきちんとやるのは予算報告会、金案みたいなイメージですね。特別委員会で本当にこれを途中でアイ・エヌ・ジーのときに報告会なんかできないです。中間報告会をやったらえらいことになるのでできないです。というのは、うちの会派で一回もんだことがあるんです。特別委員会で報告会を途中でアイ・エヌ・ジーの時点でやったらどうなるんだろう。これはめっちゃくちゃとんでもないことになってくるだろうなと思って。

議会の権能とは何ぞや。議会というのは、議会に付託されているものだから、あくまでもその委員会の中での審議を尊重しながら最終報告、結論に至ったものを報告したい。ただし、あんな広報で全くちょっと違うイメージのものを出されちゃうと誤解を受けるので、途中でやるかみたいなところはあるかもしれないですね。違うということをやると言って委員長がやると判断したらやるんでしょう。だから、非常に何か思うんですけど、最終確定したものを報告する形が議会報告会になるのかな。全体ですよ。松戸市議会として報告会を開けるものというのはアイ・エヌ・ジーとか、思い入れとか、各個人の考えとかを伝えるものじゃなくて、松戸市議会として決定したものを詳細の報告を市民にお伝えする。また、その中での意見はもちろん聞かせていただくんですけども、今後に反映させていただきますということになるのかもしれませんけどもという感じでいますね。かなりうちの会派でやったんですよ、これ。どんなイメージなのかなと想定しながら。まあ、そんな感じですけど。

## 宇津野委員

党内、石川委員のおっしゃるとおり、個人の考えを述べるような会であってはまずいんですよね。議会報告ですから、完全にやはり議会としてこう判断しましたと。それについて議論はこういう議論が出ましたという報告はもちろんした上で最終的には議会としてはこういう結論になりましたと。それで、私はもうそうあるべきであって、ほかの例えば会津か何かに行ったときなんかやはりそういった話、会派で意見が分かれているものだからどうするんですかという話、それは基本的には会派の意見というのは会派の意見としてぐっとね、それを出すのではなくて、議会として決まったことについてどういう経緯でこういう形で結論を出しましたというものを報告するんですよと。ですから、それは会派がどうなのか、全然それはどこでやろうが同じ報告会になるんです。それはあるべき姿だと思っています。

そこで、じゃあ結論が出たものについてしか報告会ができないのかどうかというところを一つ考えたときに、確かにじゃあ病院問題で、いや、私は病院の問題を地域の人たちに報告会でこういうふうには報告しちゃったんだけど、それじゃあ違うじゃないかなんて議論が病院建設検討特別委員会でやられていましたけど、私はこう説明しちゃったんだけど、違うんだったらじゃあ私の顔をぶれちゃうじゃないかみたいな議論をやられているのを聞いて、そんなことがありましたけども。

でも、私はさっきから議会報、委員長だからこだわっているわけでは全然ないんですが、議会報は、それでもそのときの到達なんですよね。そのときの議会での結論なんですよ。つまり、途中であっても例えば附帯決議をつけてみたり、途中であっても決議を上げてみたり何かをしてみたりという、結論が出ていないものについてもその都度の動きを反映しているものであって、それで、議会報に載っているものというのはその時点での到達。その時点での到達というのは議論が尽くされた結果であって、途中経過でもあるけれども、その時点の結果であるわけですから、そこについての合意はとれているはずなんですよ。ということは、現状まだ現在進行形だけれども議会はここまで議論して、これ以上のところはわかっていませんしまだ結論も出ていませんけれども、現状ここまで来ているんですという説明は、議会報に基づいたらできるんですよ。それであれば、途中経過であっても市民の皆さんに御報告することは、私はできるとしています。

それで、各個人の一般質問とかという部分については、そこはもう省略ですよ、完全に。ただし、参加された方の中で質問が出た場合に何かしら答えるという場面は出てくるかもしれませんがね。あくまでも議会報に基づいて、議

員がこの時点の議会ではこういう結論に現時点、達しています、中間的なものであってもここまでは来ていて、その合意に基づいて議会報はつくられているわけですからということをするれば、やはり議会報に基づいた形で報告会をやるというのもある意味あり得る形なんじゃないかな、一番やりやすい形なんじゃないかなというふうには思っております。途中のものであったとしても。

#### 石川委員

ちょっとイメージを教えてくださいんですけど、私は一つの質問も入れているのかと思ったらそれは除くとおっしゃったんで、まあ安心なだけで。

#### 宇津野委員

はい、除きます。当然のことだと思います。

#### 石川委員

議案のことを言っているのか、議案で議決になったものをテーマとしてやろうとしているんですか。

#### 宇津野委員

テーマは議会報そのものです。

#### 石川委員

議会報といたら僕は、ページとしたら個人質問のほうがいっぱいあるから、市民はそれを持ってきてそれでやる。そこに置いておけばあれですから、これの質問は何ですかとかなると思うんですけど、議案のマル・バツのもので質問をどうぞというやり方なんですか。

#### 宇津野委員

違います。

#### 石川委員

個人のは置いておいて、何をその議会報でやろうとしているんですか。

#### 宇津野委員

例えば、議会報をイメージしていただくと、1ページ目に今回の議会はこういうことをやりました、それで何かトピックスがあれば1ページ目に大きな、病院建設検討特別委員会で決議上がるとか、一般会計の予算が修正されるとか

というような大きなトピックスが載るでしょう。二つ目は今回の議会改革が進んだことで広報改革が進んでマル・バツ表が載りますでしょう。3ページ目には各常任委員会で審査されたような各議決なんか載るでしょう。4ページ目からは、4、5、6、7と一般質問なんですけれども、とりあえず1面と2面と3面、議案に対して、もしくはトピックスとなるべきものに対して、これについて現状はこういうことでこの議案については決まりました。この決議についてはこういう経緯があってこういうふうに議会の中で議論してこういうふうに決まりました。委員会の中ではこういう議論がされました。というのを一通り説明した後で、さて、議会報について、皆さん御意見あれば、また御質問あればという話をすればいいのかなというふうに、ざっとですけどね。

#### 石川委員

はい、イメージはわかりました。

#### 宇津野委員

その中で例えば、もちろん、議会報を見た方の中で、一般質問で自分に非常に関係のある興味深いものがあるといったときに、いや、一般質問のほうなんだけどもというときに、いや、一般質問のほうは質問を受け付けませんよというのがいいのか、それともあらかじめこういうふうに何とか議員は何日にみたいなことが書いてあれば、聞こうと思った人はもしかしたら、こちら辺に根本議員さんの名前を例えば書いておくとか、根本議員の質問をちょっと聞きたいんだったらじゃあ13日のほうにちょっと出て来て聞いてみようかなということがあるのか、よくわかりませんけれども。

〔「個人攻撃しないの」と呼ぶ者あり〕

#### 宇津野委員

それは個人の質問の取り扱いについてです。

#### 末松委員長

ただ、議会でやる報告会というのを我々のテーブルに載せますから、個人の政治活動あるいは党派、グループ、そういったものとの切り分けをもう少しして鮮明化することのほうが議会としてやるべきことが見えてくると思うんですよ。

今だとあれもこれも全部一緒の、早い話、なっちゃうんでね。それも議会でやるべきだという考えがあればそれでもいいですよ。でも、それはかなり説得



力を持たないと多分、いや、それは個人でやるべきだろうという部分にもなるよね。

#### 宇津野委員

ですから、そこは切り分けて考えても全然構わないと思う。

#### 末松委員長

それともう一つ、せっかく今、宇津野さんが発言している、この今の先には一方的に報告をするということだけでとどまる、それともそのことを踏まえてそのまま次の議会の活動に展開するポイントというのはあるんですか。要するに、我々が本来やれることにそれがはね返ってきて、我々がやるべきことが高まっていくという流れに今のその取り組みというものを持っていきますか。それとも報告することに意義があって、そこでとどまってでもやろうと。それを否定して言っているんじゃないんですよ。どういうふうにとらえているかというところを聞きたいんですけども。

#### 宇津野委員

私は現時点、大変歩みが遅い認識で申しわけないと思うんですが、現時点では、報告をして、それに対して市民から質疑をある程度受けるという意見交換的な部分であってもいいと思っているんですよ。それで、一方で次の課題に対してどう踏み込むかという部分では、先ほどの今までのやりとりの中で、常任委員会ですういった方々と意見交換をして新たな課題を抽出し進んでいくということが一方で保障されるわけですから、多くの市民と議会でのやりとりを共有して意見を交換するということに価値を見ていると思っています。

#### 山中委員

今の、宇津野委員の一般質問を取り扱うというところ以外の部分、つまりそこを除いた部分についてはかなり賛成です。

一般質問は、基本は入れないほうがいいんですよ。個人の一般質問は、質問するんだったら個人の議会報告あるいは個人の議員に聞いてくださいというのが筋だと思います。

そもそも議会は会派だとか一人でやっていらっしゃる方も、私もやっていますが、もう既に多いと思うので、それを乗り越えたところで議会の意思を表明するのが、私は議会報告会の意義だと思うんです。

具体的には、かなり今、宇津野さんのほかの部分がかぶるところが多くてすごい賛成です。要は定例会ごとにやるんでしたら決定事項をですよね、議案は

全部やる必要はないですけど、もう既に広報で主な議案と掲げているわけですよ。事務局の方のお力添えをいただいでですけど、主な議案ともう選んでいるわけですよ、議会は。それを広報委員長始め議長と皆さんの了解を得てやっているの、その解説を一生懸命やったら一つでも何時間もかかっちゃいますけど、ざっと流すだけでも相当時間はかかりますけど、に則ってやっていくというのは一つありだなど、少なくとも。これをやれと言っているんじゃないですよ。このやり方はイメージとしてはオーソドックスな手法であるという認識で候補に入れておいていいんじゃないかなと。

あとは議会の決定事項を言うというのが一つと、全会一致のもので、議会一致で何やったかとか、議員提出議案でもいいですし意見書でもいいですし、その扱いがその後どうなったのかでもいいですし、決議でもいいですし、あとは議会のスケジュールですとか、その都度話し合っって特出しすべきものを、議会報にないものがあれば、そっちの流山方式で全体会をやってから分科会として都度決めてもやっていくとスムーズにいくんじゃないかなと思っています。

各論を話してしまうと、石川さんがさっきおっしゃったような、この病院に関しては広報の訂正はやるべきだとか、そこはまた毎回もみましようというのが私の意見です。つまり、それが重要だと思うか小さい瑣末だと思うかどうかというのは人によって、議員によって多分違いますので、私なんかはやっぱり自分の所属委員会が重要だと思っちゃうんですよね。放射能対策の協議会なんか今ありましたけど、やっぱりあれは重要だとかですね、その重要な視座が人それぞれ違うんですけど、とりあえず言うことに困ることはないと思います。途中経過も当然議会報告でも、病院については議会報に書いたことはありますし、できなくはないと思っています。一つ気をつけるべきは、だれがどこに行っても会派の意見とかというのは一切押さないで、ディベートができないといけないんです。自分と違う意見や反対意見も公平に紹介するとか、たしかマニュアルかルールが何か流山はあったような気がしますけど、要はどういう意見が出ているか、6対4で割れましたとか、事実を報告するんですよ。大勢としては議会でこう決まりましたということは必要んじゃないかなと。

これはどこの議員に聞いたかちょっと忘れちゃったけど、すごい印象深かったのが、市民に対する意義は、その議会としての決定事項で意思を報告することなんですよ。ただ、こっちのメリットとしては議員同士の相互理解が生まれると。会派ではしょっちゅうミーティングやるじゃないですか、皆さん。会派を超えたミーティングは、一部やっていらっしゃるところがあるかもしれませんが、頻度はやっぱり薄くなるので、ああ、ほかの議員はこう考えているんだとか、ほかの取り決めはこうなんだというのがわかるというのを言っていました。

あと、先ほど委員長がおっしゃった、報告に終始すべきか、それとも市民からわーわーと聞くのかという話なんですけど、私は少なくとも最初の初期段階では、私のイメージでは、市民の質問をフリーで聞くよりはまずは報告をして、純然たるその報告に対する質疑に近いというか、フリーではなく純粹に議題に則ったもののほうがいいと思います。それでやっても、結局市民の方は前段から思いがほとぼしって、いや、私はここに住んでいるんだけどもこういう問題があってねとか言ってから、最後は質問はちろっとどう思いますみたいなのがやっぱり多いと思うんですよ。それで、それは個々の議員が、じゃあ今度一般質問に生かそうとか、会派で取り上げようとか、あるいは所管事務で委員長が来ているから取り上げようとか、そこは広くこちらの受け取る側がにじみ出てくるものを生かせると思うんですね。そのようになると思うので、まあ、別に聞くのが悪いと言っているんじゃないんですけども、最初は何でもいいよというよりはある程度フォーマットに則って、これはどうかというテーマを決めたほうがやりやすいんじゃないかなと思っております。

#### 末松委員長

一応の皆さんのテーマがもう後段のほうで、少し発言の切り口が見つけれないでしょうけど、ここは一委員となったつもりで気がついたことがあったらどうぞ参加してください。柔軟にこの会では運営していきますので。

#### 杉山委員

最初にもう話したんですけども、要するに基本的には、理想の形は公聴会が先あって、その後報告会だとは思っているんです。だって、もう市民からしてみたら、何だおまえ、最初に相談も来ないで報告を持ってくるな、そんなもの結果じゃないかという話なんです。そんなもの会社だって怒られるし、そんなことやったら。

ただ、現実問題としては基本的には報告から入るしかないというような現状の中でじゃあ何を報告するかで、やっぱりもうちょっと具体的に、僕は来年度予算の報告会ということでちょっとイメージを見ちゃっていいと思うんです。そこに何をくっつけるかで結構だと思っんです。僕は。そこで出てきた意見がじゃあどこに生かされるかというのは、そういうことは各常任委員会なり、それぞれが各議員の裁量内でやるべきであって、ある突破口としてやるんだしたらそこぐらいじゃないかなと思っています。

それで、あともう一個、さっきからもう何回も言うんですけども、要は今松戸市としては市政懇談会をやっているわけですよ、今、形なりにもある意味、公聴会的なことをやっているわけですよ。それで、その一方でやっぱり報告し

来ないのかいというようなそしりは、まず必ず最初に受けるだろうとは思いますが。市政報告懇談会の是非はともかくとして、僕はあんなものはなくしちゃったほうがいいと思っているんですけども、本来だったらあれは議会がやるべきものだと思うし、一方でそうやって広く何か所もいろんな地域で執行部というものが意見調整をしているにもかかわらず、それとまた違った形で議会がそこに参入する意義というのをきちんと見ておかないと、あまりやる意味が市民からも見えてこないんじゃないかなと思っています。

#### 宇津野委員

質問なんですけど、杉山委員に。

#### 末松委員長

どうぞ。

#### 宇津野委員

どなたがいいかわかりませんが、流山の人に聞きたいんです、流山を見に行けばいいのかもしれませんが、予算に対する報告という意見があるわけですけども、逆にこれは私のイメージがわきづらいんですが、例えば総務費はとかとやるのか、それとも何とか事業が今回放射能対策で30億円ついたからピンポイントでやるのか、総祭りするのか何かどうなのかというのは、イメージとしてはどういうイメージなんですかね。

#### 杉山委員

例えば、これは下手すると、要は執行部の代理みたいになっちゃうんです。

#### 宇津野委員

ええ、そんな感じになりかねないかなと思って。

#### 杉山委員

なりかねないですよ。そこをまずどうやって考えるかだと思うと、やっぱりさっき言ったように事実の名寄せしかないと思うんですよ。こういうところからこういう意見が出ました、こういうところからこういう意見が出ました。今は多分、会派代表で言っているから、ある意味そこは鮮明になってくると思いますけど、例えばこれがじゃあ常任委員会単位で分科会か何かされたときになると、もう少し何となく集約はされてくるようなイメージはわいているんですね。

あと、もう一個は、やっぱり修正だとか否決だとかというものはそろそろ考えてもいいんじゃないですかと思うんですよ。今回、僕も修正案を出させてもらっていろいろやって、いろんな人にその後市民のほうからも話に来て、そのたびに同じ話をしてというのが、ああいうのやるんだったらじゃあ一発で今回ちょっといいよという話は思っているんで、やっぱりそういう姿勢を議会が持っている。いつも年度予算、来年度というのは松戸市にとってどういう年で、ここに対しては議会としては全力挙げて応援している。そのかわり、ここに関してはやっぱりこういう懸念があったからこういう意見が出ましたよという意味では、イメージが一番事業として出てきたほうがわかりやすいんじゃないかなと思っています。

#### 宇津野委員

委員長報告っぽくなる感じなんですかね。

#### 杉山委員

基本的に対象はそうなんじゃないですかね。代表の委員長がいて、まあ委員長かどうかわからないですよ。その報告者の代表がいてその報告をして、ただそこに事実としてきちっと、さっきいったようにこういう事実がありましたと、こういう議論がありましたと。

#### 宇津野委員

委員長報告というのは、予算委員長の報告に資料と数字を加えたような感じの報告会になるのかなというふうな意味で言っているんですか。

#### 杉山委員

みんなのやり方次第でしょうね。あとは資料のつくり込みかな。

#### 宇津野委員

つくり込みね。結構、逆に大変そうなイメージですが。

#### 山中委員

ちょっと今のに関連して。

#### 末松委員長

はい、どうぞ。

**山中委員**

今の杉山委員のとちよっと私は認識が違うのは、市政懇があると批判して、まず前段としてそもそも……

**末松委員長**

じゃあ、書いてきたほうがいい、そうしたら。

**山中委員**

じゃあ、断ちます。どうぞ、皆さん。

**安藤委員**

いいですか。

**山中委員**

どうぞ。

**末松委員長**

はい、どうぞ。

**安藤委員**

仮に3月の予算委員会の後に1回報告会をやりましょうという前段として、フリーの市民の方にいらっしやっていたらいいと思うので、12月時点で、その過去2年間ぐらいの予算・決算の、締まっている決算のところと予算のところの詰めとかをこういうものなんですよねという財政状況みたいな、執行部の代理になっちゃうからあれなんですけど、そのときにいらっしやる2期目、3期目の方と一緒にそのときの温度感をお伝えして、じゃあ今度25年度に行きますので引き続き皆さんよろしくお願ひします的な感じで持っていけると、来た方は入りやすいのかなという、関心がちょっと深まるのかなという気持ちがしました。

**こひら委員**

議会報に基づいてというのはすごく取っかかりやすいと思うので、最初のやり方としてはいいんじゃないのかなと思います。それでとにかくやって、必ずアンケートを来てくださった方にとって、そこでもっとこういうことを聞きたいんだよとか、そういう意見も出てくると思いますので、そういうふうになってみたらどうでしょうかね。

## 末松委員長

最初に、深山委員長から全体の流れの発言があった。もっと言うともともと来るのかなというところから実は思って、要はその場の理解をもう少し深山さんが言ったような愚直なレベルからきちっととらえて、問題はどこか違う手前のことも、安藤さんの話も多分そういうことなのかなとちょっと理解したんだけど、そういうベースをつくってあげないと、なかなか――さっき言った前段の常任委員会でやるほうは専門家であり見識のある人に来てもらうから、きのうみたいに来てもらってもそれなりに議論になって、我々も受け止めることが見えて、ということの一つのあれになるけれども、報告をするということの今のテーマについてはそういうところがとらえどころになっているんで、それはそれで意義があるとは思いますが。けれども、そこに来て、もしかしたらちんぷんかんぷん、これは実態としてはあり得るかな。ちょっと僕ごめん、余計なことを口を挟んでいるかもしれないけども、もしそうであればその意義というものをさらに明確にするのであれば、やればよいというものでもないし、その辺どうなんですかね。実際の市民に接して。（「はい」と呼ぶ者あり）

ちょっと待って、どうぞお先に。

## 宇津野委員

短くしますから。本当、来てもらえるかどうかって死活問題なんですよ。逆にだから予算報告会みたいな形でやりますよとかというものの、それを市民が最初に受けたときに、それを知ったときに、ああ予算報告会をやるんだと知ったときのイメージのしやすさ、しづらさがあるのかな。広報というところでこの広報に基づく説明ですよという話になれば、広報を見ればまあイメージがわきやすくて、あ、これについてなんだな、これについて質問あったんだよ、聞けるんだったら行きたいなということがもしあるのかもしれないとかね。実はその個人の質問の部分にちょっと踏み込んだ理由というのはそこにも実はあって、あ、この議員さんのこの部分、どういうやりとりがされたのか聞きたい、議員さんがどう思っているのかじゃなくてどういうやりとりがされたのか聞きたかったのか、答弁がどうだったのか、もうちょっと詳しく聞きたいなというときに、もしかするとそこに興味をもしかして持って議会報告会に参加してくれるんじゃないだろうかなという思いがちょっとあったものだから、ちょっと先走って言っちゃいましたけども。

## 末松委員長

そのレベルの――僕がしゃべっちゃった。そのレベルの関心というのは、ま

ずホームページを見なきゃいけない。実際にその人の立場になって考えるときに、理屈で市政報告会をやるためのいろんな理屈を寄せ集めればそういうことはあるんだけど、実際に生活者の市民の立場で想像力を働かせたら、そのレベルの人というのは多分今、ある程度の、これだけ皆さんが努力してきてオープンになってきたいろんな仕組みがあるから、担保されているんだと思うんですよ。そう思わないですか。

#### 山中委員

いや、これ以上はホームページ見ないんじゃないですか。

#### 末松委員長

いや、それは、そんなこと言うと怒られちゃうよ。

#### 山中委員

いや、なかなか。

#### 石川委員

予算の報告会をやると、事後处理的なところでつまらないんですよ。非常に来ないかもしれないです。だけど、仕組みとしては、松戸市は公聴の部分は予算に対して仕組みをつくったんです、議会で提案して。ただ、うまくそれが動いていないような私は気がします。

要するに、松戸市の事業に対して事業仕分けという形で民事業仕分けをしましょうよと。それで、その中に市民に入ってもらって予算というものを見直すべく必要ところに市民の目線でシフトをしようという仕組みを議会で私も提案しました。それで実現しましたが、それがうまく本来の有機的に動いていないですよ、全くね。本来はそれが要するにあつた上でこの予算報告会を議会でやればいいんですよ。だけど、本来のこの本当に市民の目線で松戸で決めている予算を見直して、これを普通ないんじゃないかというところの予算を見たところを必要な市民にシフトして、結果として予算委員会があつて、こういう結果になって、皆さんの声が反映しましたといたらすごく有機的で、この報告会もすごくよくなるんですよ。

ただ、これ単発で予算報告会をやるといったら、あんまり興味が——特別やっぱり専門的に勉強されている方とか、次、議員を目指している方とか、要はそういう方々が来て、一般の市民が興味を持って来るかなという来ないような気がする。

だから、一般の市民がばっと集まる議会報告会はあれですよ。だから、放射



能のときなんかすごい来たんですよ、柏で。だから、それは切迫しているようなテーマだからね。だから、要はこの予算報告というのが、例えば来年度は25年度の一番大きなテーマを、例えば24年度のテーマでいうとこういう呼びかけだと来るんですよ。24年度の予算報告、特に放射線対策についてとかをここに入れるんですよ。そうしたら、市民はぱっと目につくんですよ。31億円も計上されると思っちゃう。どういうことをやろうとしているのかというのは、その中身を聞きに来るわけですよ。報告の。え、放射線対策で31億円も取るのと言って。どんなことをやるのと言ったら少しは来るんです。だけどこれ、ぼんと予算報告会とだけだったら来ないです。わからないから。だから、その年度のトピックスになるようなでかいテーマはあるんですよ。今年度はこういうことをやるという、それを例えば五つぐらい並べると結構来ますよ。その中でやると結構市民も聞きに来るし意見も拝聴できるし、そういうことを決めた予算配分をした意味もこちら側からもしっかり伝えなきゃいけないし、何でそんなに高い金額つけるんだとかね。いや、これは東電に請求しようと思うとか、国の補助金が来るからこの金額をつけたんだと言えればいいんじゃないかと。そんなのわからないですから市民は。

だから、血税を使うという部分で報告会をしますということでしょうから、そこにはきちんとしたものをこっちから伝えたい部分はあるわけですね。市民としても聞きたい部分があるんで、だから24年度予算報告会をする中でこのテーマをこれは五つぐらいは絞って、この部分は特に説明したいんだ、報告したいんだということで、我々側からするとぜひ聞いてもらいたいんだという報告会をするとよく来ると思う。

#### 末松委員長

さっき途中だったことは。

#### 山中委員

はい。議会報告会やる意義は、やっぱり市民の方に知っていただくことが重要なので、市民の方が来なければいけないという話ですよ、今。

私、考えたんですけど、政治も関心のあるチャンネルに入っている方はやっぱり少ないと思うんですよ。それは投票率という数字でも出ていますし、私は広報委員会もやっていますのでアクセスログを見てもやっぱり少ないんですよ。平成23年度、去年の6月定例会、定例会全部で1,131人しかライブにアクセスしていないんです。しかもこれは一部には議員とか職員が多いとかということも漏れ聞いておりますし、だから実際市民は、関心層はそんなにばーんと増えていないんです。増えたらこんな状況じゃないんですよ。選挙の

投票率を見ると少ないと思っけていまして、さっき杉山さんおっしゃった市政懇にやってくるのはほとんど町会長、自治会長や市政協力員じゃないですか。一般の市民の方が来て自由に意見を言う場じゃないので、特定はチャンネルに入っている方なんですよ、私からの認識では。そこを相手にもう一回繰り返しても意味ないですし、というか、ですから市政懇とは本質的に違うものだなと思うんですよ。執行部がやっていることもまだ不十分ですけど、議会としてはそれすらやっていない。それで、そこを別にねらわなくていいんですよ、一般にこっちから無作為でだれでも来てくださいというふうに年齢とか何かに関係なくやればいいと思うんですけど、委員長がさっき、この程度の関心の方だったらホームページ見る方が多いと思われましたけど、見ていないと私は、まだまだ見られてないですし、そもそもホームページがあるということすら知らない方が多いと思うんですよ。多分、何件ぐらい事務局に問い合わせに来られているかわからないんですけど、議会はいつやっているのとか、こういう委員会を見られるのとかというのは特定の方から来る気がするんですね。ただ、絶対量はまだ把握していないからわからないかもしれませんが、私が見る数値からはあまり読み取れないんですよ、たくさんの方は。

それで、じゃあ、人が来るかといったら私はこれは来ると思うんです。特定のチャンネル以上に来させるためには、特定のチャンネルの方はもう放っておいてもここに来てくださると思うんでいいと思うんですけど、初めて市議会が、松戸市議会が何かやっているよ、だから行ってみようという層はやっぱりいると思うんですね。今の議会の傍聴に来られていない方々、それは今、石川さんがおっしゃったようなテクニカルな部分かもしれませんが、すごい重要な部分で、本質的にその見せ方ですね、具体的なイメージがわかりやすい題名をつけたりだとか、トピックをつけたりというのはすごい重要だと思います。

それで、今ちょうど流山のほうでさっきお話がありました市民参加条例ですか、あれを無作為抽出でやろうとしたら修正がかかったじゃないですか。つまり、裁判員のようにこっちからやるんであなた来てくださいとやるからよくないんですよ。こっちはだれでもいいから来てね。ただ、VPのようにいろんな立場の人が来てねというスタンスは常に持っていないといけませんよ。向こうはこっちに強制されて来る、声をかけられて来るんじゃないで、自由意思で来る、来たかったらこういうのがあればというのを、そういうチラシを見た人が来れるようにすればいいと思うんです。

それで、公聴会についてちょっと一言だけは思ったんですけど、市議会として次の予算にこう反映してほしいとかというのは、結構これは私は無所属だからわからないんですけど、政党の方はもうマニフェストをつくっているじゃないですか、福祉を充実だとか、あるいは行革だとか。ですからそれは政党でや

ったほうが合っているのかなという気もしますね。議会としてというのは、その受けた議員が、別にやっちゃいけないわけじゃないですよ。やる余地はもちろんありますけど、それぞれのスタンスがあってそれぞれの支持者から自民党、民主党、みんないろいろありますけど、共産党さん、いろいろありますけど、それぞれの政策に同調する方と一緒につくっていらっしゃるわけですよ、政策を。それとは関係なく地方議会だからオール市議会でというのは、やる余地はもちろんありますけど、何かその2番目に重要、1番目ではないのかなと思います。少なくとも1番目にやるとしんどいなという、かなり気合が必要だなという気はします。まとまりませんが、とりあえずそんなところで。

#### 末松委員長

どうぞ、どうぞ。

#### 深山総務財務常任委員長

ごめんなさい。すごい軽い話になっちゃうんで申しわけないんですけど、例えば、自分の経験なんですけど、たまたま40代までのときにJCというところにおいて、実はまちづくりの委員会というものに属してまして、地区を6地区に分けてそれぞれの地域に出前のいわゆる報告会じゃないですけど、どんな課題があってどういうふうに、まあ、松戸をしていきたいかということ踏まえて、月1回ずつ1年間12回やって、それをまとめて報告会というか、JCの中で報告会、対外的に報告をしてやった。本当にちょっとした経験なんです。そのときに今皆さんのお話を聞いていて、やっぱり理想はあったんですけども、報告会とかそういう理想はあったんだけど、行くとやはり基本的に、おまえらの団体はまず何なんだということなんです。それで、ほとんどがその自分たちのやっていることを説明をさせていただく、自分たちがやっていることを理解してもらうということがまず前段にあって、その次に、じゃあ、聞きたいことのテーマを含めていろいろな意見を言ってくれということなんです。

そういうことを経験させていただいて、もちろん年齢的にも若かったし、いろんな意味でわからない点がいっぱいあったんですけども、やっぱり議会報告って何なのかなということを考えたときに、議会報告の意義、もちろん最終的にはいろいろな形の中でいろんな方々の御意見をいただき、それを何らかの形に反映していくというのが一番大きな課題、テーマになっていくと思うんですけど、そういうところの以前の問題として、議会の報告、議会の活動をわかっていただくというような最初のスタンスで、仮にもし不特定な方々と接するということであれば、その辺で絞り込んでやっていってもいい。そういう中で、

恐らくおっしゃられたようないろいろな、これはどうなっているんだ、あれはどうなっているんだといった質問が出てくると思うんですけど、それはそれで受け止めながらやれば、各常任委員会でも所轄だったらそういうことがあったよということでも伝えていくというような、議会をわかっていただける報告会というのをまず切り口に一步、もしそういう不特定多数の方を集めてやるということになればそこら辺で一つ押さえておく中で行ったほうが、各議員さんも多少気持ちが楽なのかなという気もしないでもない。ごめんなさい、楽なのかなという言い方おかしいんですけど……（「共通認識が持ちやすい」と呼ぶ者あり）共通認識が持ちやすいんじゃないかなという気がする。それで、今おっしゃったような、例えばいろんなことを各個人的な意見を言っちゃいけないんだとか、いろんなことというのは、まあこっちの取り組み決めだと思わなければならないけども、そういうふうになってくると対象者をどうするんだ、この制限はどうするんだ、地区割りをどうしていくんだとか、年何回やっていくんだとか、そういうかなり細かなことを決めていく中でいかないといけないかなという気がするんで、逆にそういう議会をわかっていただくということをテーマにした中で少し動いてみて模索してみるのも一つの共通認識を持ちやすいんじゃないかなという気がしたんですけどね。

杉山委員さんがおっしゃったように、やっぱり究極的には予算向けの執行と、決算・予算ということがやっぱり根本的には一番大きいものだと思いますし、いろんな意味でその年その年のポイントになるような予算づけのことというのを説明するということが大きなテーマになってくるんだと思わなければならないけども、どうですかね、そんなことでいわゆる議会をわかってもらうようなスタンスの共通認識の中で少しちょっと動いてみるというのは、最初は。

#### 末松委員長

ちょっと待ってよ。じゃあ、そっちに行こう。

#### 安藤委員

今の深山さんの御意見を聞いて、出前という感じのイメージで小学校の総合学習に行ってみるとか、そういうところに入り込んでいくというのはとても楽しそうだし、すみません、本格的な議会報告の前段として下地づくりという意味でとても意義があったりとかはするのかなと、入学式、卒業式だけというのも、私だけかもわからないですけども、そういう授業にも入り込んでいって毎日働く市民のもとに、スタンスでもかかわりというのかなと思いました。

#### 宇津野委員

今、深山さんがおっしゃったことは、たしかどこかの自治体で、忘れちゃったけども、議会報告会を始めるに当たって第1回目はそれでやったんだ、最初。（「やっぱり」と呼ぶ者あり）ですから、そこからスタートする。それで、第1回目をやってみて、市民の反応を見て、それで2回目以降を決めていくというのはありだと思うんですね。実際そこから始めないと始まらない気は正直します。

#### 石井教育経済常任副委員長

すみません、これは急がなきゃいけないことですか。

#### 末松委員長

ううん、どうぞ、まず言ってください。

#### 石井教育経済常任副委員長

例えば、食べてみなきゃわからない、この冷やし中華の味ってわからないというのがあるじゃないですか。だから、ずっと考えているとじゃあ、市民の質問に対してどの議員が答えるのというところまで行っちゃうと思うんですね。山中さんのこの資料は、本当に非常にありがたいんですね、と同時に、またもっといろんな資料があって、勉強してまた見学に行ってから、皆さんにいろんな意見を言っていただいて、それからスタートしてもいいんじゃないのかなと。

多分、石川さんが心配されているように、このテーマで話をしているんですけども、市立病院どうなっているんだよと必ず出てくるような気がするんですよ。例えばの話ですよ。だから、そういう場合のことも考えながらやるには、やはりもっと見聞をするというか、勉強してそれからのほうがいいのかと、じゃないと多分いろいろいろいろな意見が――また、そのいろいろな意見が出ていいんですけども、すごくいいことだと思うんですけども、やはり見ながらいろいろな意見を言ったほうがいいのか、見ながら、その資料を集めながら、と思いました。

#### 末松委員長

それでは、いよいよ2時間というところを一つの目安に進めておりましたので、まず整理をすると、いわゆる一般的な報告会、市民議会報告会という後段のテーマについては、例えばやるとしたときに予算を中心に新年度の方針についてやるのか、あるいは時々の議会の定例会の中でのテーマについてやるのか、あるいは重要な課題、市民の関心が強いだろうというものを見つけてそれでやるのか、はたまたその基本的なことをまずきちんと押さえてもらった上で関心

に応じて展開していくべきじゃないか。まあいろんな提案がありました。

このことにつきましては、継続して議論をしていきたいと思います。それで、この議論をすることで恐らく議会とは何かということがある程度共有していけるような気もしますので、これを一つ継続してやっていくに当たって、次回、もう少し進めたいと思いますから、具体的にこういう報告会をやったらどうだ、これは1案じゃなくても結構です。これをたたき台として少し取りまとめをしていただけるといいのかなと思っています。

それともう一点、活性化委員会としては、そのことも含めて最終的にはまた議長にお返しをするというような、これは相も変わらぬ位置づけであります。

それともう一点、前段のことに関しましては、きょうはあえて委員長に参加をしていただき、それぞれ御意見を拝聴いたしました。それで、たまたま教育経済では前例としての取り組みがあって、そのことの事例も踏まえてある程度の意義を共有していただけたかと思うんですが、委員長からはそういったことを積極的に取り入れたいという話もありました。あるいは、ちょっとまだ今うちの委員会ではその展望が見えないという話もありました。原則、それぞれの常任委員会にそのことを委ねたいと思います。しかしながら、せっかくの機会でありますから、その取り組み方の形といいますか、どういうふうにそのことを取り入れて市民と議会との関係性、それもその文脈で恐らく政策提案というものに連携しながらそういったものの活動の意義が見いだされると思いますから、その辺を中心に少し形の整理をさせていただいて、また御提案をさせていただきたいというふうに思っています。

いずれにしても、そういうことで、市民議会報告会というものを整理をした上で次回、再度協議をしていきたいというふうに思っておりますので、時間の関係で、時間だからといって切るわけではありませんが、そうはいつでもこの時間ですから、一度この会はとどめたいと思いますが、その前に何かあれば、どうぞ御発言をしてください。

## 山中委員

一点だけ質問——質問といいますか、ちょっと事務局に、次回でもいいんですけど確認していただきたいのが、ここ数年の出前講座の議会について、選挙についてとは違いますが、議会の仕組みについてとありますね、事務局で。私も何回か市民のころから参加したんですけど、今、基礎から押さえてという話もありましたから、ちょっともしそのコラボができるんなら、ごめんなさい、私の考えはいいや。質問は、ちょっとここ数年の開催実績を教えてください。何人ぐらいが参加されていらっしゃるか。次回でも結構です。できれば何曜日が多いかとか、人数も何人ぐらいかとか、即答できますか。

末松委員長

開催日はわかる。私がやったときは休みの日です。

山中委員

休みの日、あんまり多くないですか。3回。

末松委員長

集まったのは20人ぐらいですね。

山中委員

全然、周知されていないですね。

末松委員長

だから、そういう前提を踏まえた上でいろんなものを組み立てていくといいと思いますけど。

山中委員

わかりました。とりあえず。

末松委員長

いいの、資料請求じゃなくていいのね。理解できているの。

山中委員

じゃあ、できればちょっとちゃんと下さい。3年か5年かわかりませんが、現行は。できればありがたいです。すみません。よろしくお願いします。

末松委員長

あと、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ありがとうございました。

以上で閉会をいたします。お疲れさまでした。

委員長散会宣言

午後4時08分

委員長 署名欄	
------------	--